

令和6年度 施策評価シート

施策の名称	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	幹事 部局	環境生活部
施策の目的	心豊かに暮らすために身近な自然環境を保全し、また、人々の活動の舞台として、歴史・文化で彩られた自然景観や色々な動植物が生きる自然環境の魅力を活用します。		
施策の現状に対する評価	<p><u>①(自然保護に対する県民意識の向上)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアや地域住民が連携して活動を行うことで、自然保護に対する県民意識は年々高まりつつある。鳥獣保護については、計画的に保護区を指定している一方、農作物被害等により住民理解が得られにくくなっていることが課題である。 宍道湖・中海の認知度や利活用促進に係る県民の意識・理解が十分ではないため、両湖の価値や魅力を伝える情報発信の強化が課題である。 <p><u>②(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習施設等では、企画展や自然とふれあうイベントの開催等により自然観察や環境学習の機会創出に貢献しているが、施設の老朽化や、施設の魅力が十分認知されていないことなどから、入館者数等が横ばい傾向にある施設もあり、増加に向けた取組が課題である。 <p><u>③(自然の活用の推進)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援しているが、活用数が伸び悩んでいることが課題である。 隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、認知度不足等により交流人口などの具体的な数値に結果が表れていない。ソフト・ハード両面の受入環境整備や、情報発信を通じた誘客増に向けた取組の継続が課題である。 <p><u>(前年度の評価後に見直した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然観察指導員等の確保を目的とした研修を実施することなどにより、自然保護活動の活性化や担い手の育成確保を図った。 自然公園への来訪意欲の向上を図るため、自然体験動画を用いたプロモーションを行うこととした。 		
今後の取組の方向性	<p><u>①(自然保護に対する県民意識の向上)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの育成研修や保護活動の実施・参加への呼びかけを継続し、担い手育成と人材の掘り起こしを行う。また、生物多様性への理解促進や持続的な保全活動が可能となるよう、県民の関心度や意識の向上を図っていく。 鳥獣の被害対策と保護管理を両立するため、生息動向の把握に努め、保護活動や被害対策の事業を実施し、住民理解を得るよう努める。 令和7年度のラムサール条約登録20周年を契機として、SNSの活用や関係機関との連携により情報発信の内容を充実させ、宍道湖・中海の認知度向上と利活用促進の機運を醸成する。 <p><u>②(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然公園や三瓶自然館、宍道湖自然館、しまね海洋館、花ふれあい公園の各施設においては、新たな魅力を感じてもらえるよう、施設の整備や、展示・パフォーマンス等の内容進化、関係機関との連携による情報発信の強化などに取り組み、利用者の増加を図る。 <p><u>③(自然の活用の推進)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然体験プログラムの造成、磨き上げや利用促進等の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、民間団体を支援していく。また、隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、ユネスコによる4年に1度の再認定に向けて必要な環境整備を行い、認知度及び来島者の満足度向上につなげる。 		

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	県立しまね海洋館管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。	447,894	413,436	しまね暮らし推進課
2	自然保護のための情報収集・整理事業	県内の自然情報	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。	2,966	3,614	自然環境課
3	自然環境保全地域の保全事業	自然環境保全地域の自然環境	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。	1,070	1,158	自然環境課
4	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	レッドデータ生物の生息・生育環境	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する。	12,834	14,698	自然環境課
5	県民参加による自然保護活動事業	県民や地域の活動団体	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。	4,002	5,893	自然環境課
6	自然公園管理事業	自然公園利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	18,847	18,015	自然環境課
7	中国自然歩道管理事業	中国自然歩道の利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	8,577	9,111	自然環境課
8	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	353,671	418,255	自然環境課
9	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る。	85,776	326,441	自然環境課
10	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す。	98,226	177,140	自然環境課
11	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。	7,612	8,927	環境政策課
12	野生鳥獣保護対策事業	野生鳥獣	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵恩を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。	42,252	41,881	農山漁村振興課
13	花ふれあい公園事業	県民	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興	89,717	92,123	産地支援課
14	穴道湖自然館管理運営事務	一般来館者、一般県民	鳥根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、鳥根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	135,888	139,521	水産課
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

しまね暮らし推進課

事務事業の名称		県立しまね海洋館管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。		447,894	413,436
			うち一般財源 (千円)	378,994	413,436
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発等を行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を実施 施設の円滑で適切な管理運営のための指定管理者:(公財)しまね海洋館との連絡調整、障がい者福祉施設への調剤業務委託によるスタッフの確保、老朽化した備品等の更新・修繕及び脱炭素化を図るためLED照明の導入等 国内でも飼育頭数の少ないシロイルカの出産や仔獣飼育のための設備修繕、レポート客拡大や県内・近県からの利用促進につなげるため、周辺の資源や事業者等と連携した新規コンテンツの作成や季節イベント等の取組を実施 特別支援学校等と連携したリモート校外学習の実施、多様な学習の機会を提供 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> 施設設備、備品の計画的な更新 新規来館者開拓のため、一般旅行者ではなく首都圏の子供の体験学習を受入 			
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	県立しまね海洋館の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		36.2	36.2	36.2	36.2	36.2	万人	単年度 値
		実績値	34.6	20.9	25.4	34.6	34.8			
		達成率	—	57.8	70.2	95.6	96.2	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 6月にシロイルカ:ケーリヤが死亡し、約1か月間シロイルカパフォーマンスを休止したことにより、6月は前年度比で8,954人、コロナ禍前R1年度比で2,967人の減 1月にシロイルカ2頭の妊娠発表したことにより、前年度比で2月は4,063人の増であり、2月としては過去3番目の入館者数 規制緩和により県外旅行の需要が回復したため、県内や近県からの修学旅行等の受け入れの減 R5年度:129件、9,419人(R3年度:319件、20,463人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 来館や現地観察会の実施が困難な児童・生徒のため、ICT機器を活用したリモート校外学習を実施 一般旅行者ではなく、首都圏の子供の体験学習を受入 季節にちなんだ特別イベントや特設水槽の展示
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 コロナ禍からの回復はあったものの、長期トレンドでみた入館者数は停滞傾向 施設の魅力及び認知度の向上に向けて各種営業活動やJR等と連携した取組を実施しているものの、目標入館者数は未達 障がい福祉施設や特別支援学校など地域の団体等と連携した福祉的な取組も進めているが、目標入館者数は未達
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 上記①(課題)が発生している原因 他地域で新たな水族館の開館や、リニューアルが行われており競争が激化 施設の老朽化及び生物の管理・展示等に必要の備品等の不足 パフォーマンス、企画展等の変化がやや乏しく、変わり映えがしない。 施設の認知度向上のための戦略的な広報に改善余地あり 周辺他施設や団体等と連携した取組を実施しているものの、施設のポテンシャルを発揮できる余地あり
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の現況把握と長寿命化計画による老朽箇所の修繕 計画的な備品等の購入・更新 パフォーマンス等の内容進化 公園管理者、地元事業者等の関係団体と連携した季節イベントの実施等の一体的取組や、効果的な広報等を実施 エージェンツへの積極的な働きかけ等により、PR先の新規開拓及び閑散期の集客対策を実施

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然保護のための情報収集・整理事業			
目的	誰(何)を対象として	県内の自然情報	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。		2,966	3,614
			うち一般財源 (千円)	2,966	3,614
令和6年度の取組内容		・生物多様性の主流化の実現に向け、自然環境保全施策を推進するために、県内に生息する多種多様な野生動植物及び地理に関するデータを収集・整理し更新する。 ・島根県自然環境保全条例に基づく県内6箇所の環境保全地域の状況確認及び保全計画に関する地元育成会等の意見を整理し保護対策に活用する。 ・開発事業者に対して希少な野生動植物及び公園区域、保全地域に関する情報提供やその保護に関する指導を行う。 ・許認可手続き等について、昨年度更新したHPを更に分かりやすくブラッシュアップする。			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4	62.8	67.0	64.9			
		達成率	—	103.7	89.8	89.4	81.2	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県自然環境保全条例に基づく許認可件数(令和5年度 4件) ・自然公園法及び島根県立自然公園条例に基づく許認可件数(令和5年度 44件)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・自然保護において重要な自然公園(県立自然公園等)の区域や自然環境保全地域の区域を統合型GIS上へ登録し、視覚化することで工事などの行為地が当該区域に該当するかどうかの判断が容易となった。 ・各種許認可が必要な行為に係る手続きについてHPの整備を行ったことにより、実施者による手続きの適切化が図れた。
課題分析	① 課題	・動植物(特に希少野生動植物)に対する生息地情報を事業者向けや県民向けに公開できず、その存在が分からないまま開発行為がされる懸念がある。
	② 原因	・希少野生動植物の生息情報の公開については、乱獲などへ繋がる懸念もある。
	③ 方向性	・希少野生動植物に関する知識や保護意識の醸成に努める。(R7年度にレッドデータブックの改訂を予定)

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		自然環境保全地域の保全事業			
目的	誰(何)を対象として	自然環境保全地域の自然環境	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。		1,070	1,158
			うち一般財源 (千円)	1,070	1,158
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 「島根県自然環境保全条例」に基づき指定している「島根県自然環境保全地域」の適正な保全を図るため、地元の保護育成団体に保護管理を委託するとともに、自然保護指導員を配置し、巡視活動等を実施する。 保全活動の周知、PRを実施し自然保護活動の実践者の更新・増加を図る。 特に地元の保護育成団体の高齢化が著しい「赤名湿地」の管理について、恒常的に外部ボランティアの支援を受けられるよう、ボランティアの登録、養成のための講習会を開催。 ボランティアが保全活動に参加しやすくなるよう、刈払い機等の設備整備を実施。 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		保全地域の管理について、地元保護育成団体への委託内容の見直しにより、負担軽減を図った。 保全地域について継続的な管理ができるよう、県内ボランティアとの連携による管理手法を検討した。			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4	62.8	67.0	64.9			
		達成率	—	103.7	89.8	89.4	81.2	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護レンジャーや行政機関職員等の協力により、単発のイベント的保全活動を実施し地元保護育成会の活動を支え、自然環境保全地域の環境保全が図られている。 ここ数年は現メンバーで何とか対応できるが、保護育成団体構成員の入れ替わりがないため、団体の高齢化が進み保全スキルのある次世代の担い手がいない状況に変わりはない。 	
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 	<ul style="list-style-type: none"> 希少種の保護を担っている地元保護育成会の活動の縮小が懸念される。 専門的知見に基づく保全活動が行われていない。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少と高齢化により、地元保護育成会の担い手が減少している。 「自然環境保全地域」の周知が十分でなく、その希少性が伝わっていない。 専門家による保護・保全状況の把握が十分なされていない。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護活動の新たな担い手となり得る人材の育成と継続的な研修を実施する。 地元育成会と自然保護レンジャー等の連携を図る。 自然科学系博物館からの職員派遣により事前の現地確認や活動当日の説明などにより効果的な保全活動を実施する。 「自然環境保全地域」の周知に努め、自然保護活動の実践者の増加を図る。

事務事業評価シート

担当課	自然環境課
-----	-------

1 事務事業の概要

事務事業の名称		レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業			
目的	誰(何)を対象として	レッドデータ生物の生息・生育環境	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する		うち一般財源 (千円)	12,834
令和6年度の取組内容		・生物多様性の主流化に向けて、県民の自然への関心度向上に向け、希少野生動植物の普及啓発を行う。 ・「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」で指定している希少野生動植物について、生息・生育環境の調査を実施し、地元住民等関係者と連携した保護対策を実施する。 ・開発事業者に対して希少な野生動植物に関する情報提供を行うとともに、その保護に関する指導を行う。 ・R7年のレッドデータブック改訂完成に向け、R4年度に立ち上げた改訂委員会を毎年開催し意見を踏まえ、各チームにより作業(調査、原稿作成)を実施する。			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値	65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値	
		実績値	61.3	67.4	62.8	67.0	64.9			
		達成率	—	103.7	89.8	89.4	81.2			—
2	指定希少野生動植物の指定数【3月末時点】	目標値	5.0	5.0	6.0	6.0	7.0	種	累計値	
		実績値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0			
		達成率	—	100.0	100.0	83.4	83.4			—
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・指定希少野生動植物について、関係機関および地元住民を中心とする保護巡視員・団体等で巡視活動を定期実施。 ・自然環境の保全意識の向上を図るため、自然観察会や自然教育セミナー等を実施。特に若い世代の自然保護等に対する理解が得られるよう対象を工夫。
課題分析	① 課題	・生物多様性の劣化(開発や乱獲などによる生物の種の減少・絶滅、生息地の環境劣化) ・自然の魅力を伝えられる人材や保護巡視員、自然保護レンジャーの高齢化
	② 原因	・レッドデータブック掲載種などの希少野生動植物の保護や自然環境の保全に関する県民の関心度が十分に高いとは言えず、特に若い世代の自然保護等に対する理解が得られておらず行動に反映されていない。
	③ 方向性	・レッドデータブックの改訂により、現状の基礎調査を実施し、指定種の追加検討や保全体制づくりを実施。 ・「しまね生物多様性地域戦略」の普及(レッドデータブックの周知や自然保護活動の紹介、自然観察会の実施)などにより、県民の自然環境の保全への関心度や意識の向上を図る。 ・関心度向上により、将来の保護活動ニーズ(巡視員やレンジャー等)の掘り起こし。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		県民参加による自然保護活動事業			
目的	誰(何)を対象として	県民や地域の活動団体	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。		4,002	5,893
			うち一般財源 (千円)	2,703	3,593
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 自然保護活動団体等が行う自然保護活動や自然体験活動への支援(自然観察会、自然教育セミナー等)を行う。 自然保護レンジャー等へ各種情報提供などを行い、巡視活動(報告)や自然保護活動への参加を推進する。 自然保護ボランティアのための研修(自然保護指導員養成)を行い、自然保護活動の担い手の育成確保を行う。 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		自然観察の手法を伝える指導員の確保を図るため、研修会を実施し、指導員の技術の向上、活動の活性化、自然保護活動の担い手の育成確保を行った。			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然保護ボランティアの活動日数(年間)【当該年度4月～3月】	目標値		400.0	520.0	1,010.0	1,030.0	1,050.0	人日	単年度値
		実績値	630.0	933.0	992.0	826.0	864.0			
		達成率	—	233.3	190.8	81.8	83.9	—		
2	「みんなで守る郷土の自然」等地域の新規選定数(令和元年度からの累計値)【3月末時点】	目標値		2.0	4.0	6.0	8.0	10.0	地域	累計値
		実績値	1.0	1.0	4.0	8.0	9.0			
		達成率	—	50.0	100.0	133.4	112.5	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護ボランティアの活動日数は概ね増加傾向にあり、自然観察会や自然教育セミナーの実施、自然保護団体等への支援により、自然保護ボランティア活動の活性化を図った。 自然保護レンジャースキルアップ研修を開催し、自然保護活動への理解を深め、今後の活動の推進につながった(参加者19名)。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなで守る郷土の自然」等要綱で指定した地域や自然環境保全地域を守っている地元団体の活動が、希少野生動植物の保護や県民の自然保護意識の醸成に十分生かされていない。 地元の活動団体の活動の縮小が懸念される。 今後の自然保護団体等の活動方針、状況等の確認が必要である。 レンジャー報告数が減少している。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 要綱で指定した地域や、自然環境保全地域を守っている関係団体の状況把握等が十分出来ておらず、活動の状況把握、効果的な事業が実施出来ていない。 人口減少と高齢化により、地元の活動団体の担い手が減少している。 レンジャー報告は義務ではなく任意である。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 要綱で指定した地域、関係団体の状況把握を行い、地域、関係団体の活動の支援、周知に努める。 関係団体の新たな担い手となり得る人材の育成と継続的な研修の実施。 県から団体への委託事業による自然観察会を実施し、地元自然保護団体の活性化を図る。 今後の自然保護団体等の活動方針、状況等の確認及びレンジャーへ、報告の協力依頼を実施。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然公園管理事業				
目的	誰(何)を対象として	自然公園利用者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		18,847	18,015	
			うち一般財源 (千円)	18,847	18,015	
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 県内の自然公園(国立公園、国定公園、県立自然公園)に県が整備した施設(遊歩道、駐車場、公衆トイレなど)について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等、施設の日常管理を委託。 快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに、自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。 					
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと						
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然公園の利用者数(令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		12,800.0	14,900.0	26,500.0	37,500.0	47,900.0	千人	累計値
		実績値	11,760.0	8,824.0	17,343.0	27,868.0	39,710.0			
		達成率	—	69.0	116.4	105.2	105.9	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R4 25,950千人地点】→【R5 30,168千人地点】(対前年比:+16.3%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえて、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、自然公園の快適性や魅力向上を図った。 施設修繕を広く実施し受入環境の向上を図った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。 公園内の歩道等は、利用が低迷し、ほとんど人が通らない箇所がある。 市町村への管理委託の内容について見直す必要がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象地域が広く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。 労務単価の上昇や光熱費高騰により管理委託料が増嵩している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算の確保に努め、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村と連携して管理運営をしていく。 満喫プロジェクト関連事業と連携して安心・安全で快適な施設の整備を行っていく。 各施設の老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、利用が低調な施設については、今後のあり方を検討していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		中国自然歩道管理事業			
目的	誰(何)を対象として	中国自然歩道の利用者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		8,577	9,111
			うち一般財源 (千円)	8,577	9,111
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 県内の中国自然歩道のうち、県が整備した主にモデルコースとなっている歩道区間・施設について、地元市町村に除草、清掃やバトロール等、施設の日常管理を委託。 快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。 パンフレットの作成・配布、県ホームページを活用して利用促進に向け情報発信する。 中国自然歩道の路線見直しを行う。 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 中国自然歩道の路線見直しを行うこととした。 				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	中国自然歩道の利用者数(令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		580.0	680.0	1,230.0	1,760.0	2,280.0	千人	累計値
		実績値	502.6	405.3	796.4	1,192.4	1,603.3			
		達成率	—	69.9	117.2	97.0	91.1	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R4 25,950千人地点】→【R5 30,168千人地点】(対前年比:+16.3%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえて、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、中国自然歩道の快適性や魅力向上を図った。 施設修繕を広く実施し受入環境の向上を図った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。 対象区間が長く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。 ルートの間隔によっては、利用が低迷し、ほとんど人が通らない箇所がある。 市町村への管理委託の内容について見直す必要がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象区間が長く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。 労務単価の上昇や光熱費高騰により管理委託料が増嵩している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算の確保に努め、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村と連携して管理運営をしていく。 満喫プロジェクト関連事業と連携して安心・安全で快適な施設の整備を行っていく。 各施設の老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、ルートの見直しを検討していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。		353,671	418,255
			うち一般財源 (千円)	348,930	380,273
令和6年度の取組内容	1. 三瓶自然館及びその附属施設について、指定管理者と協力して以下の事業を実施 ①企画展(春、夏、冬の3回)・自然観察会・天体観察会の開催 ②各種イベントを通じて自然に対する理解を深める取組の実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑤三瓶自然館及びその附属施設の整備と維持管理 2. 小豆原理没林の保存対策と集客増 ①展示機能強化による集客増対策 ②展示棟内の保存対策工事 ③保存状態のモニタリング				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	三瓶自然館サヒメル及び小豆原理没林公園入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		162.0	162.0	162.0	162.0	162.0	千人	単年度値
		実績値	100.9	95.8	144.6	119.1	117.2			
		達成率	—	59.2	89.3	73.6	72.4	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・県内や近県からの修学旅行生受け入れの減 R5年度:0件 0名(R4年度:14件 609名) ・環境教育及び環境学習の提供として各団体や学校等の要請に応じて講師派遣を実施 R5年度:70件 2,396名(R4年度:67件 2,079名)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・三瓶自然館において天体観察会を継続的に実施するため、老朽化した反射望遠鏡設備を更新した。 ・三瓶自然館における企画展の内容をより深く理解してもらうための関連イベントや、季節毎の自然観察会、体験イベント等を開催した。 ・コロナ5類移行に伴い、小豆原理没林公園において休止していた展示解説を有料で再開。大田市内の小学校をはじめとした各団体等からの希望に応じて展示解説を実施し、自然遺産に関する学習機会の充実を図った。
課題分析	①課題	・来館者数が減少傾向にある。 ・施設の魅力及び認知度の向上が不十分である。 ・埋没林の学術的価値が十分に伝えられていない。
	②原因	・県内及び近隣県他施設と集客で競合している。 ・施設の老朽化及び企画展示に不可欠な標本収蔵スペースの不足。 ・施設の認知度向上のための戦略的な広報が不十分。
	③方向性	・指定管理者と連携し、多言語化及びリニューアルした展示施設等を活用しながら、島根の自然の魅力と価値を分かりやすく解説する施設として認知度向上及び来館者の増加に向けて取り組む。 ・施設設備の現状把握を行い、長寿命化計画による老朽箇所の修繕等や備品設備の計画的な更新を行う。 ・施設の特徴、魅力を十分伝えるため、ホームページやSNS・メディア等を活用した広報の強化、観光協会等と連携したPRや、周辺の資源等を活用した効果的な広報等を実施する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		85,776	326,441
			うち一般財源 (千円)	50,537	118,841
令和6年度の取組内容		(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ジオパーク推進機構の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパーク認定審査に向けた対応			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	(一社)隠岐ジオパーク推進機構ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV数	単年度 値
		実績値	214,626.0	200,437.0	238,304.0	236,357.0	135,807.0			
		達成率	—	71.6	66.2	53.8	26.2	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・隠岐DMO化に伴い、機構においてR5にWebサイトのリニューアルを実施。「ジオパーク」、「観光」の2サイトを整備し、情報等の整理を行った。隠岐ジオパークへの興味関心を測るためジオパークサイトPV数を計上(参考:観光サイトPV数:R5 2,465,369) ・隠岐地域の観光入込客延べ数:R元 167千人→R2 92千人→R3 123千人→R4 186千人→R5 201千人(県観光動態調査結果) ・交流人口数(推定入島客数):R元 123千人→R2 66千人→R3 72千人→R4 96千人→R5 111千人 ・隠岐を訪れる外国人観光客数:R元 1,133人→R2 96人→R3 38人→R4 138人→R5 1,044人(隠岐汽船利用者のみ)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定継続に向けて必要な展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等はいずれも対応中または対応済。 ・隠岐DMO組織の運営支援を実施。 ・令和4年12月にユネスコ世界ジオパークとして再認定。次回再認定審査は令和7年度の予定。
課題分析	① 課題	・ジオパークそのものの認知度向上が進まず、隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度もまだ低い。 ・隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやツアーなどが不足している。 ・令和4年度に(一社)隠岐ジオパーク推進機構(隠岐DMO)が立ち上がったところであり、新たな推進体制をベースとした業務の充実及び事務局運営体制の強化を図ることが必要。
	② 原因	・隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観や歴史などが観光資源として活用できていない。 ・災害等により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある。 ・ホームページ、インターネット、SNS等を利用した情報発信が不十分。
	③ 方向性	・(一社)隠岐ジオパーク推進機構が中心となり、4町村や県など関係機関で連携し、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力向上のための環境教育・学術研究・ジオサイト整備や、来島者の増加及び満足度向上のための観光誘客の取組の強化など具体的な事業に取り組む。 ・隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定継続に向けて、(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、必要な施設整備等を計画的に実施する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		うち一般財源 (千円)	98,226
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 県内の自然公園への誘客促進に向け、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成など、民間事業者等の取組を支援 自然公園の魅力発信のため、県内自然公園を活用した自然体験動画の作成及び国内外へのプロモーションを実施 受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備、景観阻害する樹木の伐採 満喫プロジェクト推進事業の連携強化とレベル向上のため、活動団体等を対象とした研修会の開催 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験動画を用いたプロモーションを行うことで、来訪意欲の向上を図る 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	21,000.0	40,000.0	65,000.0	85,000.0	人	単年度 値
		実績値	64,997.0	7,589.0	3,306.0	4,412.0	(R6.10予定)			
		達成率	—	12.5	15.8	11.1	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村内の宿泊者数を環境省が推計 環境省の数値から関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)の宿泊者数を推計(過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人、R元 64,997人、R2 7,589人、R3 3,306人、R4 4,412人) 令和5年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、59,321人(前年(9,883人)と比べ500.2%増加) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援する補助金の公募を実施し、12事業を採択した。 自然公園等の遊歩道の整備等を実施し、受入環境の向上が進んでいる。 自然公園の魅力ある情報を発信するため、YouTube広告を用いて国内外に発信し、島根の自然公園の認知度向上につなげた。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われる自然体験プログラムが誘客になかなか結びついていない。 県内の自然公園の認知度が低い。 回復傾向が見られるものの、国内外の来訪者は伸び悩んでいる。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 取組を支援する補助金の情報が、対象となる事業者等に広く認識されていない。 魅力的な体験プログラムの造成が進んでおらず、また来訪者が長期滞在して楽しめるメニューが少ない。 自然体験に興味があるターゲットに情報が届いていない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験プログラムの造成、磨き上げや販売促進等、民間団体の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する。 自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する。 自然公園の魅力及び利便性向上並びに来訪者の安全確保のため、施設修繕等の受入環境の整備を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。		7,612	8,927
			うち一般財源 (千円)	3,110	4,587
令和6年度の取組内容		・地域住民が参加する人の五感による湖沼環境評価や小中学生を対象とした流入河川調査を実施し、宍道湖・中海への興味関心と環境保全意識の向上を図る。 ・ラムサール条約の理念である「保全再生」「賢明な利用」、これらを促進する「交流学习」を推進するため、沿岸市での一斉清掃や子どもラムサール交流会等を実施するとともに、ラムサール条約について分かりやすく説明したパネルを作成する。 ・コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境の保全再生及び地域活性化に取り組むことを目的に、民間団体や関係自治体を構成員とする協議会を設置し、協議会の取組を支援する。			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・斐伊川水系生態系ネットワークとの共催により、斐伊川流域の水鳥の生息状況について理解を深め、自作イラストの缶バッジを作成するワークショップを開催した。 ・出雲市の協力を得て、トキの放鳥に係る市の取組について学び、斐伊川河口で水鳥観察会を開催した。			
1	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポーツ来訪者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0	231,630.0	271,823.0	277,274.0	329,093.0			
		達成率	—	84.0	96.4	96.3	112.0	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①五感による湖沼環境調査 モニター数(人・団体) R3:87 R4:95 R5:93 と推移 ②小中学生等による流入河川調査 実施団体数(団体) R3:44 R4:35 R5:33 と推移 ③中海宍道湖一斉清掃 参加人数(人) R3:908 R4:6,048 R5:7,033 と推移 ④ラムサール関連イベント 実施イベント数(回) R3:1 R4:2 R5:2 と推移 ⑤大型水鳥関連イベント 実施イベント数(回) R3:8 R4:4 R5:9 と推移 ⑥賢明利用関連普及啓発 広報数(回) R3:15 R4:13 R5:9 と推移								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・中海・宍道湖一斉清掃など島根・鳥取両県連携事業や宍道湖・中海の魅力伝えるパネル展示会による情報発信などにより、宍道湖・中海の価値や魅力について一定の理解がされている状況。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

農山漁村振興課

事務事業の名称		野生鳥獣保護対策事業			
目的	誰(何)を対象として	野生鳥獣	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。		42,252	41,881
			うち一般財源 (千円)	39,643	39,275
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 野生鳥獣の保護を図り、自然の恵沢を享受できる環境を整えるために、鳥獣保護区等の指定をする。 野生鳥獣の生態や行動等を考慮した対策を講じるため、鳥獣専門指導員を配置し、地域での対応や県民への啓発等を行う。 野生鳥獣の保護管理と有効な被害対策や狩猟の適正化を図るために、野生鳥獣の生態や行動等の調査を行う。 鳥獣保護行政の円滑な推進のために、鳥獣保護管理員を配置する。 鳥獣保護に対する理解を深めてもらうため、野鳥観察会、愛鳥週間の取組、傷病鳥獣の救護などを行う。 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得よう努める。 			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	鳥獣保護区指定箇所【3月末時点】	目標値		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	箇所	累計値
		実績値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0			
		達成率	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ■鳥獣保護思想の意識啓発 ○野鳥観察会の開催(年2回:参加者のべ55人) 愛鳥週間のポスター募集(応募:349点) ○傷病鳥獣の救護事業(R5:17件) ■ツキノワグマの保護・管理 ○捕獲個体(R5:135頭)については、県民の安全・安心の確保の観点から、「第二種特定鳥獣管理計画」に定めるゾーニング手法により、放獣等(36頭)・殺処分等(99頭)を行った。 ■出雲北山地域のニホンジカの管理:適正水準の180頭に向け、466頭の個体数調整捕獲を実施 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護思想普及啓発活動や傷病鳥獣の救護、保護管理のための生息状況の把握、分析・検討等の取組を通じ、鳥獣保護に対する理解が得られ、計画どりの保護区設定ができた。 ツキノワグマの管理・保護については、市町村との合意形成を図りながら、放獣・殺処分の対応、また被害管理を円滑に実施した。 出雲市北山地域のニホンジカについて、農業者等への指導支援を目的に、農業者団体を主体とする被害対策連絡会議を実施し、今後の被害対策について理解を得た。
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区周辺での野生鳥獣による農作物被害が発生し、保護区の設定についての住民理解が得られにくくなっている。 ツキノワグマが誤ってイノシシ用のわなに掛かってしまう「錯誤捕獲」の発生が多く、捕獲者に対して錯誤捕獲をしない箱わなへの脱出口の設置の理解が得られにくい。 ツキノワグマの適切な保護管理を進める上で、次期計画策定の基礎となる最新の生息頭数が不明。 出雲北山地域のニホンジカの保護・管理について、第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画における管理目標頭数である180頭に達していない
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> 設定した鳥獣保護区周辺の荒廃した里山や耕作放棄地に定着した野生鳥獣の出没が増加。 錯誤捕獲をしないための箱わなへの脱出口の設置は、本来の捕獲対象であるイノシシも脱出する不安の払拭が難しい。 出雲北山地域のニホンジカについては生息頭数が減少し、捕獲効率が落ちている
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得よう努める。 鳥獣保護区及びその周辺での鳥獣による農作物被害に対しては、捕獲等の被害防止対策を推進する。 鳥獣保護区の管理や鳥獣思想の普及啓発のため、鳥獣保護管理員を委嘱する。 ツキノワグマの保護・管理は、捕獲個体の放獣と殺処分などバランスを取りながら取り組むとともに生息数調査を実施し、次期計画策定の基礎資料を得る。 ツキノワグマが指定管理鳥獣に新たに指定されたことを踏まえ、出没・被害状況を踏まえた対策の強化を図る。 出雲北山のニホンジカについては効率的な捕獲方法・体制を検討し、管理計画における管理目標頭数180頭の達成を目指す。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

産地支援課

事務事業の名称		花ふれあい公園事業					
目的	誰(何)を対象として	県民		事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どのような状態を目指すのか	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興			89,717	92,123	
令和6年度の取組内容	花ふれあい公園の指定管理者に管理業務を委託し、以下の取組を実施 ・四季折々の花の企画展示や体験企画など、県民が花に親しむ機会を提供 ・県の主力花き(キク、バラ、トルコギキョウ、ポタン、あじさい、シクラメン)を中心とした企画展示や県オリジナル品種の情報発信 ・花き生産者の研修や展示場所及び各種花き教室への研修室の利用促進						
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・SNSによる情報発信及び他施設との連携によるPRの強化						
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策			
2	上位の施策		4	上位の施策			

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	販売額1,000万円以上の中核的経営体の育成数(R2年度からの累計)【当該年度4月～3月】	目標値		78.0	156.0	223.0	298.0	402.0	経営体	累計値
		実績値		-	22.0	44.0	65.0	85.0		
		達成率		-	28.3	28.3	29.2	28.6		
2		目標値								
		実績値								
		達成率		-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内産の花苗、鉢花の植栽利用率99.1%(R5年度実績報告書より)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・SNS等の各種媒体を活用しての情報発信を行い、R5年度入園者数は61,758人(前年度比8%の減) ・県の主力花き(キク、バラ、トルコギキョウ、ポタン、あじさい、シクラメン)の展示、紹介等のイベント回数は7回(延べ106日)の状況
課題分析	① 課題	・企画展に合わせ施設内での販売により県内産花きの消費に取り組んでいるものの、花きの担い手育成に直接的に寄与しない。 ・施設の経年劣化による修繕必要箇所の増加。 ・月により入園者数の変動がある。
	② 原因	・公園としての利用が主で県民が花に親しむ機会の提供にはつながっているものの、花き生産者の研修や展示場所としての利用が少ない。 ・建設から年数を経ていることから、屋内展示施設であるガラス室棟に係る修繕箇所が増え続けている。 ・屋外展示を主とした施設であるため、入園者数が天候(降雨、気温等)の影響を受けやすい。
	③ 方向性	・花き品評会での利用・展示や若手花き農業者等の研修施設として、研修室の外部への貸出を推進。 ・県のオリジナル品種等に係るアンケート調査や情報提供による、島根の花きの価値の底上げと、それに伴う販売額の増加。 ・施設設備の要修繕箇所の現状把握と長寿命化計画への反映による計画修繕の実施。 ・屋内展示のPRなど季節や天候に応じた施設での過ごし方をSNS等で発信していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 水産課

事務事業の名称		宍道湖自然館管理運営事務			
目的	誰(何)を対象として	一般来館者、一般県民	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。		135,888	139,521
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの位置づけが5類へ移行したことにより、イベント等の開催制限が廃止され、展示など自然学習の場を広く提供 ・指定管理者が隣接地で運営する宍道湖グリーンパーク(鳥や昆虫の観察等)と連携した活動の推進及び情報の発信 ・関係機関と連携した教育普及プログラムの開発協議の実施 ・今後の展示設備の在り方について、指定管理者と連携した施設整備及び改修の検討 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・R5.5にイベント等の開催制限が廃止されたことにより、小学校や中学校、公民館などへの講師派遣や教育普及イベントなどの社会教育に対応 ・定期的に新たな展示を導入することで展示の魅力の増進 				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	ゴビウス入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	人	単年度値
		実績値	138,820.0	74,505.0	97,622.0	118,390.0	141,969.0			
		達成率	—	62.1	81.4	98.7	118.4	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの位置づけが5類へ移行したことにより、イベント等の開催制限が廃止され、展示など自然学習の場を広く提供 ・特別展・・・R5年度:年3回実施(R4年度:年3回) ・トピック展示の更新・・・R5年度:延べ24回(R4年度:延べ18回) ・年間パスポート購入者数・・・R5年度:3,440人(R4年度:2,771人) ・学校、公民館等への講師派遣・・・R5年度:14件341人(R4年度:8件261人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行したことに伴い、県や指定管理者による積極的な広報活動により、令和5年度のごびウス入館者数は目標値を上回った。年間パスポート会員限定のイベント開催や季節毎のトピック展示を頻回更新するなど、リピーターの満足度向上に向け創意工夫を行った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 ・資材・燃料費高騰による修繕費や光熱費のランニングコストが嵩んでいる。 ・団体利用時に使用できるレクチャールームが狭いため、団体受け入れを制限しなければならない状況が続いている。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備全体の老朽化、特に給排水・電気設備などの老朽化が著しく、緊急修繕を要する箇所が増加している。 ・見学者用通路のバリアフリー化未対応
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンから20年以上経過しており、施設の老朽化が著しいため、大規模改修、リニューアルなどを検討 ・施設設備の老朽化による修繕箇所の現状把握(特に給排水、電気や機械設備)、長寿命化計画に基づく修繕 ・水辺の生き物に対する興味関心や学習意欲の高揚をはかるため、特別展やトピック展示など定期的に新たな展示を導入、関係機関との連携及び地域住民、ゴビウスサポーター(ボランティア)との関係強化を図り、教育普及サービスの向上を図る。